

第 86 回日本医学会定例評議員会

2019年2月22日（金）於：日本医師会館小講堂

午後2時開会

議長（門田守人日本医学会長） 定刻になりましたので、第86回日本医学会定例評議員会を開催したいと思えます。評議員会は過半数をもって成立ということになっていますが、今から5分前は76学会、58.9%のご出席で、その後も先生方にいらしていただいていますので、この評議員会は成立しますことをまずご報告いたします。

それから、評議員会の議長は学会長がなるということが日本医学会規則第13条で決まっていますので、門田が議長として進行を務めさせていただきます。

日本医師会長挨拶

議長（門田日本医学会長） まず、日本医師会の横倉義武会長にご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

横倉日本医師会長 皆様、こんにちは。ご紹介いただきました日本医師会の横倉と申します。日本医学会の定例評議員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、日本医学会および各分科会が、わが国の医学の水準の向上、また、医療の質の向上に大変なお力添えをいただいていることに心から感謝を申し上げます。

日本医師会の活動におきましても、日本医学会にさまざまなご協力をいただいている会議があります。日本医師会には三大諮問会議というものがあります。医療政策会議、生命倫理想談会、そして学術推進会議です。この学術推進会議では門田会長に座長をお願いしていますし、副会長の先生方にもご参画いただいています。そのほかの

委員会等々にも、医学会からさまざまな先生方にご協力いただいています。

また、今年4月に開催されます日本医学会総会への日本医師会の協力も、医学会と共同して4年に一度の大会を成功に導かなければいけないと取り組んでいます。

学術講演では、齋藤会頭をはじめとする皆様のご努力によりまして、4つの柱を中心に大変興味深いプログラムが作られています。グローバル化時代を迎えた日本の医療や超高齢・少子社会における医療の在り方など、そのどれもが現在の日本の医学・医療界が直面している問題が取り上げられていまして、総会での講演や議論が今後これらの問題解決の糸口になるようにと期待しています。また、昨年ノーベル医学生理学賞を受賞されました本庶佑先生の特別講演も予定されているということで、大変楽しみにしています。

開催間近となりましたが、今総会には日本医師会の会員が1人でも多く参加していただけるように、さまざまなことを考えていまして、日本医師会としても初めてのセッションを開かせていただくか、会員の懇親の場を作るなどの試みをして、総会の参加者を増やすように努力しています。

また、日本医学会は、法人格を持つ組織としての活動が必要ということで、2014年度に一般社団法人を立ち上げられました。年々活発な活動を続けていらっしゃるお聞きしていますが、日本医師会といたしましては、引き続き日本医学会および日本医学会連合と協力して、良質な医療や学問的な進歩を国民の皆様提供・還元するべく、たゆまぬ努力を続けてまいりたいと考えています。また、共に学術団体として、昔も今も変わらず

第 86 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本脳神経外科学会 (連) 齊藤 延人	日本小児神経学会 (欠)
日本解剖学会	寺田 純雄	日本輸血・細胞治療学会 (代) 牧野 茂義	日本呼吸器外科学会 千田 雅之
日本生理学会 (連) 赤羽 悟美		日本医真菌学会 澁谷 和俊	日本医学教育学会 鈴木 康之
日本生化学会	嶋田 一夫	日本農村医学会 新谷 周三	日本医療情報学会 大原 信
日本薬理学会	吉岡 充弘	日本糖尿病学会 植木浩二郎	日本疫学会 (連) 井上真奈美
日本病理学会	北川 昌伸	日本矯正医学会 新妻 宏文	日本集中治療医学会 西村 匡司
日本癌学会	中釜 齊	日本神経学会 戸田 達史	日本平滑筋学会 羽生 信義
日本血液学会 (欠)		日本老年医学会 栗木 宏実	日本臨床薬理学会 下田 和孝
日本細菌学会 (欠)		日本人類遺伝学会 (連) 要 匡	日本神経病理学会 (連) 渡部 和彦
日本寄生虫学会 (連) 久枝 一		日本リハビリテーション医学会 (欠)	日本脳卒中学会 宮本 享
日本法医学会 (欠)		日本呼吸器学会 長谷川好規	日本高血圧学会 (連) 田村 功一
日本衛生学会 大槻 剛巳		日本腎臓学会 (連) 要 伸也	日本臨床細胞学会 青木 大輔
日本健康学会 (欠)		日本リウマチ学会 (欠)	日本透析医学会 (連) 土谷 健
日本栄養・食糧学会 (欠)		日本生体医工学会 木村 裕一	日本内視鏡外科学会 (欠)
日本温泉気候物理医学会 (欠)		日本先天異常学会 (連) 黒澤 健司	日本乳癌学会 井本 滋
日本内分泌学会 赤水 尚史		日本肝臓学会 (欠)	日本肥満学会 (欠)
日本内科学会 矢富 裕		日本形成外科学会 (欠)	日本血栓止血学会 山崎 昌子
日本小児科学会 (連) 清水 俊明		日本熱帯医学会 狩野 繁之	日本血管外科学会 古森 公浩
日本感染症学会 (欠)		日本小児外科学会 (代) 金森 豊	日本レーザー医学会 (欠)
日本結核病学会 藤田 明		日本脈管学会 (連) 宮田 哲郎	日本臨床腫瘍学会 (連) 向原 徹
日本消化器病学会 橋本 悦子		日本周産期・新生児医学会 (欠)	日本呼吸器内視鏡学会 (代) 川村 雅文
日本循環器学会 (代) 高野 仁司		日本人工臓器学会 妙中 義之	日本プライマリ・ケア連合学会 (欠)
日本精神神経学会 (欠)		日本免疫学会 (欠)	日本手外科学会 (欠)
日本外科学会 (連) 野村 幸世		日本消化器外科学会 田邊 稔	日本脊椎脊髓病学会 (欠)
日本整形外科学会 山崎 正志		日本臨床検査医学会 (連) 古川 泰司	日本緩和医療学会 (連) 齊藤 洋司
日本産科婦人科学会 藤井 知行		日本核医学会 橋本 順	日本放射線腫瘍学会 茂松 直之
日本眼科学会 大鹿 哲郎		日本生殖医学会 (欠)	日本臨床スポーツ医学会 (代) 武者 春樹
日本耳鼻咽喉科学会 小川 郁		日本救急医学会 横田 裕行	日本熱傷学会 (代) 田中 裕
日本皮膚科学会 天谷 雅行		日本心身医学会 福土 審	日本小児循環器学会 (欠)
日本泌尿器科学会 (欠)		日本医療・病院管理学会 (連) 竹田 秀	日本睡眠学会 (連) 千葉伸太郎
日本口腔科学会 丹沢 秀樹		日本消化器内視鏡学会 田尻 久雄	日本磁気共鳴医学会 青木 茂樹
日本医学放射線学会 今井 裕		日本癌治療学会 (欠)	日本肺癌学会 弦間 昭彦
日本保険医学会 中道 洋		日本移植学会 (欠)	日本胃癌学会 (欠)
日本医療機器学会 (代) 深柄 和彦		日本職業・災害医学会 (欠)	日本造血細胞移植学会 (欠)
日本ハンセン病学会 (連) 圓 純一郎		日本心臓血管外科学会 (連) 横山 齊	日本ペインクリニック学会 小川 節郎
日本公衆衛生学会 小林 廉毅		日本リンパ網内系学会 吉野 正	日本病態栄養学会 清野 裕
日本衛生動物学会 (代) 桐木 雅史		日本自律神経学会 (欠)	日本認知症学会 (代) 本井ゆみ子
日本交通医学会 花岡 一雄		日本大腸肛門病学会 (欠)	日本災害医学会 (欠)
日本体力医学会 下光 輝一		日本超音波医学会 (欠)	日本小児血液・がん学会 (連) 真部 淳
日本産業衛生学会 (連) 柳澤 裕之		日本動脈硬化学会 佐藤 靖史	日本老年精神医学会 (欠)
日本気管食道科学会 塩谷 彰浩		日本東洋医学会 佐藤 弘	日本静脈経腸栄養学会 東口 高志
日本アレルギー学会 (欠)			日本再生医療学会 (連) 岡野 栄之
日本化学療法学会 (欠)			
日本ウイルス学会 (連) 勝二 郁夫			
日本麻酔科学会 稲田 英一			
日本胸部外科学会 (連) 小山 信彌			

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員 門田会長 飯野・岸・門脇各副会長
 (幹事) 清水・大江・遠山・池田・稲垣・春日・小池・小室・寺本・國土・小西・瀬戸・森・奥村・秋葉
 (欠席 宮園・岩本・高本・里見)
総会 (第 30 回)：齋藤会頭、高橋準備委員長、長谷川総務委員長、村田幹事長

ぬ「車の両輪」という表現をしていますが、今後とも互いに協力し合う存在でありたいと願っています。

日本医学会ならびに各分科会が今後ますます発展されますよう期待いたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

議長(門田日本医学会長) 横倉会長、どうもありがとうございます。

■議事録署名人

議長(門田日本医学会長) それでは、ただいまより議事に入りたいと思います。最初に議事録署名人の選出をさせていただきたいと思います。慣例で議長が指名することになってはいますが、そのような形で指名させていただくということでしょうか。一拍手—

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。それでは、基礎・社会医学系は、日本交通医学会の花岡一雄先生、臨床医学系は、日本脳卒中学会の宮本享先生に、お願いいたします。

■次第(議事概要)

議長(門田日本医学会長) この評議員会の議事の概要を簡単にご説明させていただきます。はじめに、第30回日本医学会総会の準備状況を総会役員の方からお伺いし、そのあと2018年度の年次報告を行います。その際に日本医学会の予算についてもご報告させていただきます。

協議事項は、2019年度の事業計画、日本医学会加盟学会についてお諮りさせていただきます。その後、質疑応答をさせていただき、日本医学会定例評議員会を閉会するという流れで進みたいと思います。なお、閉会に引き続き、日本医学会連合の臨時総会を開催させていただきますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

■日本医学会長挨拶

門田日本医学会長 最初に一言ご挨拶させていただきます。2年弱前に新しい執行部として選任されました。世の中の変化が非常に激しく、改めて申すまでもないかも分かりませんが、わが国の

研究力、論文あるいは研究費など、最も大切と思われることに大きな課題が次々と出てきています。

論文不正の問題など負の因子が多かったと思いますが、医学会は学術団体としてこういう状況を、われわれ自身のミッションとして、どうあるべきなのかということから、医学会の活動も今まで以上にいろいろな形で突き進めていく必要性を感じているのが、今の執行部の考え方です。

皆様にもいろいろとご協力をいただいていると思いますが、これからもぜひともこの方向性がさらに充実して前に進んでいきますよう、よろしくお祈りいたします。本日は今年度の報告と、それから来年度に向けての計画、予算等の話をさせていただきます。どうぞよろしくお祈りいたします。

■第30回日本医学会総会準備状況

議長(門田日本医学会長) まず、報告事項1)第30回日本医学会総会の準備状況についてということで、齋藤会頭、高橋準備委員長からご報告をよろしくお祈りいたします。

齋藤第30回日本医学会総会会頭 皆様、こんにちは。会頭を務めます齋藤英彦です。あとふた月後に迫りまして、すでにご案内のように、プログラムあるいは展示はすべて固まっています。プログラムの作成に当たりましては、各分科会から貴重なご意見をいただき、それを取り入れて学際的・横断的、それから今、非常な勢いで新しい技術が医学の分野にも入ってきていまして、ゲノム編集やAIなど大きなパラダイムシフトの時代に、どうしたらよいかと考えながら作りました。

また、今回初めての試みとして、各分科会に展示のブースの参加を呼びかけましたところ、80学会以上から参加いただけるということで、そのブースで各分科会が今までどういう活動してきたか、今後どのような課題を持っていくのかを、学会参加者にご披露いただく機会を作りました。

やや事前登録が足りなくて苦戦していますので、高橋準備委員長からもう少しお願いの話をしてもらいます。

高橋第30回日本医学会総会準備委員長 ご紹介いただきました準備委員長を仰せつかっており

ます高橋です。いま齋藤会頭からお話がありましたように、早いもので日本医学会総会まであと2か月となり、現在の準備状況と、特に登録についての再度のお願いをさせていただきますので、よろしく願いいたします。お配りした封筒の中に資料をお入れしましたので、ご覧になりながら聞いていただければと思います。

シンポジウムの準備状況は、現在、皆様のご意見をもとに80を超えるシンポジウム、特に基礎から臨床医学を横断する分野横断的なさまざまなシンポジウムを企画させていただきました。AIやIoTが今後医療にどのように入って応用されていくかや、Precision Medicineの今後の方向性、超高齢・人口減少社会に対して医療がどう対応していくのか、あるいはグローバル化と日本の医療、日本がどう国際貢献していくかなど、先生方の興味深い分野横断的なシンポジウムを多数組ませていただきましたので、ぜひ周りの先生方に宣伝いただいて、さらに登録を推進していただければと思います。

横倉会長からご紹介がありましたように、昨年のノーベル医学生理学賞を受賞されました本庶佑先生に記念講演をお願いし、また、開会講演では天野浩先生、閉会講演では山中伸弥先生という3名のノーベル賞受賞者にご講演をいただきます。実にタイムリーだったのですが、本日、はやぶさ2がリュウグウに到着したということで、初代はやぶさのプロジェクトリーダーの川口淳一郎先生にも記念講演をしていただきます。非常に多士済々の方にご講演いただくので、皆様にも大変楽しんでいただけるのではないかと思います。

昨日、総会の電子抄録を公開させていただきました。登録された先生方にはパスワードをメールでお送りしていますので、本日お帰りになってお時間があれば、ぜひ抄録集などをご覧いただければと思います。

本日特にお願したいのは、齋藤会頭からもありましたように登録推進ということで、現在、医師・医学研究者の登録が約1万4,000名を少し超えたところですが、前回の京都での医師・医学研究者の登録が1万7,000名強ということで、あと

3,000名は登録を増やしたいと思っておりますので、ぜひ分科会の先生方に改めてご周知いただければと思います。ホームページを見ていただくと、内容を非常に詳細に見ることができます。

登録推進という点では、本日お配りしたパンフレットにも記載してありますように、日本専門医機構の専門医共通講習の単位を修得できるようにいたしましたし、日本医学会の多くの分科会も研修単位が修得できるように、分科会の先生方にメリットのある企画を多数用意しています。

名古屋大学の長谷川先生が日本内科学会の総会・講演会会長になられて、同時開催いたします。内科学会はポートメッセなごやという会場で行いますが、ポートメッセなごやと医学会総会の国際会議場をシャトルバスで、20分ずつなく予定ですので、内科学会にご参加される先生方にも、ぜひこれから医学会総会の登録をしていただければと考えています。

資料でお配りしましたように、総会に加えて医学史展、市民展示、さまざまな市民公開講座を開催いたします。第一弾として3月2日から名古屋大学博物館で医学史展を開催いたしますし、続きまして3月30日から9日間、春休みを使って家族で楽しめる医のテーマパークを、ポートメッセなごやで市民展示として行います。もしお時間が許しましたら、先生方もぜひそういった企画にもご参加いただければと思います。

あと2か月になり、これからも先生方のご支援で、医学会総会を盛り上げていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

2018年度日本医学会年次報告

議長(門田日本医学会長) 次に、2018年度日本医学会年次報告に移りたいと思います。冊子の右上に1と書いてあります「日本医学会年次報告」を開いていただきたいと思います。

まず医学会総会の説明がありますが、ただ今報告がありましたので、4ページに進んでいただきたいと思っております。

4ページの2. 日本医学会幹事会とありますが、先ほどこの評議員会の前に開催いたしました。

その次の日本医学会評議員会はこの会議です。

4. 日本医学会シンポジウムと載っていますが、これは主に医療関係者を対象に開催するシンポジウムです。今年度は6月2日に「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」と題して行いました。12月11日は公開シンポジウムとして一般の方も対象にした形で、「適切な遺伝学用語のあり方」を開催しました。今年に入って1月16日、「AIと医療の現状と課題」を開き、通常ですと年2回がシンポジウムの回数になっていますが、今年度は3回開催することになりました。シンポジウムの記録についてはDVDを作っています。学会その他の機関にもお配りしており、また、ホームページのオンラインライブラリーからも配信していますので、ご覧になっていただきたいと思ひます。

5. 日本医学会公開フォーラム。これは一般の方を対象にしています。7月21日に「認知症の予防とケア」、10月13日には日本医師会と合同で、話題になっています「HPVワクチンについて考える」というテーマで開催いたしました。このフォーラムもシンポジウムと同様、DVDの作成その他同様に行っています。

6. 日本医学会医学用語管理委員会。この委員会は日本医学会としては最も古い委員会です。今年度は3回開催されています。

7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ。今まで使われてきた遺伝の言葉として「優性遺伝」「劣性遺伝」という用語が一般化していたわけですが、一昨年日本遺伝学会がそれを「顕性」「潜性」という言葉に変えるべきではないかと報告され、新聞記事になりました。現場では統一した見解がはっきりしない段階で新聞報道がなされたということもあって、日本医学会では、このワーキングを立ち上げ、本来使い慣れた用語を変更していく必要がある場合、どういう手順で、どういふことをすべきなのかと検討を進めています。この件につきましては、やはり皆様の理解が必要だということで、公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」として開催いたしました。

8. 日本医学会分科会用語委員会。分科会から

選出された用語委員の方々に集まっていたいただきまして、年に1回開催していますが、今年度は12月18日に開催いたしました。

9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会を開きました。医学賞と医学研究奨励賞の選考を中心に行う委員会、8月31日に開催し、賞として11月1日に授与されたということです。

10. 日本医学会加盟検討委員会。のちほど清水委員長からご報告いただくので、ここでは省略したいと思います。

11. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会。12番目には、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会がありますが、これは福嶋委員長にお願いして、遺伝情報の扱い方を検討していく、特にダウン症に対しての出生前診断、今いろいろとニュースになっていますが、こういうことについて検討していただいたものです。

13. 日本医学会利益相反委員会。曾根委員長にお願いして利益相反について、われわれ日本では比較的意識が低かったのですが、日本医学会では早いタイミングで立ち上げ、教育を含めて現在進めています。特に医学雑誌の問題、利益相反の問題、研究倫理の問題、さらには診療ガイドラインをどのようにするか、今の時代に非常に大切なことですので、各学会の先生方に対して研修をしていただいています。

14. 日本医学雑誌編集者組織委員会。これは北村聖先生が委員長で開いていただいています。先ほど挙げたそれぞれの委員会と共に、医学者の育成そのほかのことについて勉強していただくことに対して、ご尽力いただいています。

15番目は、先ほど言いましたように、関係した委員会が集まって合同のシンポジウムを開催するというので、11月6日は「医学研究公表のためのコンプライアンス」をテーマにしました。

16番目の研究倫理教育研修会は、4つの委員会に集まっていただいて、シンポジウムを開き、特に医学倫理やCOIなど幅広く伝えていただきたいと進めている事業です。

17. 移植関係学会合同委員会。臓器移植に関す

る法律ができた20年前から、日本医学会がこの合同委員会を担当しています。昔あったほどの回数はないのですが、重要なテーマとして、ここで扱うことになっています。

18. 日本医学会だより。「日本医学会だより」を2回発行したということで、後半にコピーがあると思いますが、出しています。

19. 情報発信。非常に重要なことですが、いろいろな形で今テーマになっている、問題になっているものについて情報発信して、医学会学術団体としての方向性を示しています。

20番目は、各会議等の開催状況ですが、ここに挙げているとおりです。

21. その他として、冊子体等の実際出したものを掲載しています。

それでは、日本医学会予算について報告をさせていただきます。A4判の横長になっている「平成30年度日本医師会予算（医学会支出の部）」と書いてあるものです。医師会予算として医学会の支出分が記載されているのが、この医学会部分ということになるわけですが、医学会部分については、昨年度に引き続き同額の予算を計上していただいています。現在、医師会においては、予算の抑制をせざるをえないという話を聞いていますが、医学会については同額の予算が認められています。以上が年次報告です。

2019年度日本医学会事業計画

議長（門田日本医学会長） 次に、協議事項に移りたいと思います。まず、2019年度日本医学会事業計画です。右上に2と書いてあります「日本医学会事業計画」をご覧になっていただきたいと思います。

先ほどご報告いたしました報告とほぼ同様な順番に並んでいますが、これをいつもの年のように順次進めていくということです。たとえば2ページの3. 日本医学会シンポジウム、前年度は3回開きましたが、通例ですと2回ということで、公開フォーラムについても同様です。

それぞれその委員会につきましては、そこに書いてありますが、年次に行くべきことが挙がって

います。特に医師会医学賞あるいは医学研究奨励賞選考等の重要な委員会、そのほかの委員会も順次挙げていますが、こういう形で予定させていただいています。基本的には大体同様な形で進めていただくということです。

新しいこととして、6ページを見ていただきたいと思います。16. 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会（仮称）となっていますが、こういう形で新たに立ち上げることを考えています。昨年末に日本産科婦人科学会と日本移植学会から、子宮移植が欧米で成功してお産があると新聞記事になったりしていますが、わが国でも行いたいという研究者に対して、どう考えるかという問い合わせがありました。いわゆる臓器移植につきましては、命に直結する臓器の移植ということで長年認められていることですが、新たなこととして、自分の生命というよりも次世代をどう考えていくのかということで、新しいテーマとも言えることから、日本医学会として検討するというところで、いま委員会を立ち上げようとしています。

そのほか予定される諸会議などをここに挙げていますが、このような計画で実施させていただきたいと思いますので、よろしく願います。

2018年度日本医学会加盟学会

議長（門田日本医学会長） それでは、協議事項2) 2018年度日本医学会加盟学会の件について、清水委員長からご報告をお願いしたいと思います。

清水加盟検討委員会委員長 2018年度は5月15日に新規加盟申請の公示をいたしました。7月31日の締め切りまでに29の学会から加盟申請がありました。最初に審査員全体13名で書面審査をいたしました。書面審査を通過した学会に関して12月20日に加盟検討委員会が開催され、十分な議論がなされました。

加盟には出席委員の2/3以上の賛成がなければ認められないというルールがありまして、特にその学会の学術性、国際性、社会への貢献などが主な基準として審議されますし、たとえば倫理委員会があるかどうか、経理がどのように行われているかということもいろいろ勘案して、今お手元に配

付されています3つの学会が委員会として最終的に推薦されました。日本脳神経血管内治療学会、日本骨粗鬆症学会、日本アフェレシス学会の3つを日本医学会加盟検討委員会としては推薦いたしました。本年1月11日の日本医学会協議会に報告し、了承を得ました。本日この協議会の前に開かれました第2回日本医学会幹事会でも了承を得られましたので、この評議員会にお諮りする次第です。

それぞれの学会は先ほど申しましたように、学術性の面でも、また、社会貢献とか国際性の面でも、非常にしっかりした学会だと考えていますので、ご審議をよろしくお願ひしたいと思います。

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。先ほどご紹介がありましたが、幹事会においては、この3学会を承認する方向で評議員会にお諮りすることになりました。いかがでしょうか。お認めいただけますでしょうか。一拍手—

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。それでは、この3学会について、この評議員会でお認めすることにさせていただきます。

1点、医師会の組織としての医学会、先ほども見ていただきましたが、予算を見ても医師会の予算で行っていることもありまして、最終的には日本医師会の理事会で承認が必要になるということです。3月19日に予定されていますその理事会で承認されて初めて正式に認められます。ご留意いただきたいと思います。加盟の3学会については、以上とさせていただきたいと思います。清水先生、どうもありがとうございます。

■ その他 学会名の変更

議長(門田日本医学会長) それではその次、「その他」に移りたいと思います。1つ目は学会名の変更です。資料7を見ていただきたいと思います。まず、日本集団災害医学会という、古い名前がそちらですが、「日本災害医学会」と名称を変更するというのが、昨年6月の段階でこちらに届いています。改めて本日、評議員会として皆様にご報告させていただきます。もう1学会は、日本静脈経腸栄養学会が来年の1月1日から「日本臨

床栄養代謝学会」に名称を変更するという届けが届いています。特に問題はないと考えますが、皆様にご報告させていただきます。

ただ、この学会名ですが、単なる1学会ではなくて、現在のところ129学会が類似の名前を使っているということもありますし、ただ単純に自分のところはこう変えたいというようなことで、万が一周辺のほかの学会と齟齬が発生することがないように考えておく必要があるのではないかと思いますので、変更のときにはできるだけ事前に医学会に連絡を取っていただいて、特に問題がないことを確認する作業をしておくべきではないかと思いますので、もしそういう機会がありましたら、ぜひご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

■ 第31回日本医学会総会役員

議長(門田日本医学会長) 次に、第31回日本医学会総会役員についてということで、現在、30回目がまさに開かれようとしているところですが、その4年後の第31回総会の役員が決定していますので、ご報告をお願いしたいと思います。第31回総会会頭に決定しています春日先生、よろしくお願ひします。

春日第31回日本医学会総会会頭 ただいまご紹介いただきました春日です。昨年この会で、第31回日本医学会総会の会頭にご承認いただきました。その後1年間の進捗状況についてお話をしたいと思います。

資料8をご覧くださいと思います。会期は学術集会在2023年4月21日(金)~23日(日)、東京国際フォーラムを中心に行いたいと考えています。学術展示は2023年4月20日~23日まで、これは東京ビッグサイトを中心に行いたいと考えています。

組織委員会ですが、6人の先生方に副会頭をお願いいたしました。東京大学の宮園先生、東京医科歯科大学の北川先生、慶應義塾大学の天谷先生、学校法人慈恵大学の栗原先生、順天堂大学の新井先生、そして東京都医師会の尾崎先生です。

それに加えて、各委員長といたしまして、

まず準備委員長ですが、東京大学の門脇先生、学術委員長に東京大学の南学先生、総務委員長に東京大学の齊藤先生、登録委員長は国立国際医療研究センターの國土先生、展示委員長として順天堂大学の青木先生、広報委員長として慶應義塾大学の岡野先生、式典委員長は帝京大学の沖永先生、財務委員長として国立がん研究センターの間野先生、記録委員長として東京慈恵会医科大学の松藤先生、男女共同参画委員長として東京医科歯科大学の大野先生、ソーシャルイベント委員長として東京都医師会の猪口先生、幹事長として東京大学の山内先生、事務局長として地域医学研究基金の小嶋さん、以上の方をお願いをしています。

第1回目の組織委員会を2月2日に開催することができまして、ほぼ全員の方にご参加いただきました。そこではとにかくまず名古屋のこの医学会総会を成功裏に終わらせるということで、微力ではありますが、全員で事前登録をいたしまして、時間が許す限り名古屋の医学会総会に参加させていただいて、いろいろ参考にして勉強していきたいということで合意いたしました。以上です。

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。第31回総会をよろしくお願ひしたいと思います。

日本医学会副会長

議長(門田日本医学会長) 次にまいります。日本医学会副会長についてです。これは何のことかなと考える方がいらっしゃるかと思いますが、本日はここで日本医学会の評議員会を開催しています。冒頭で、これが終了し次第、日本医学会連合の臨時総会を開催させていただくと申し上げましたが、われわれは2つの顔を持っています。法人としての医学会連合と、それから医師会の中で長年やってきた医学会という両方の顔があるわけですが、この副会長については、もともと基礎・社会医学・臨床の3つの部会でそれぞれ選出していたのですが、臨床の学会が非常に増えたということで、外科系と内科系に分けるのが、バランスが

取れているのではないかということから、連合では定款20条の2で4名の副会長にしています。

ところが医学会の定款では、副会長は3名で、大昔からそういう状態がずっと続いているということです。一昨年の日本医学会連合定時総会の際に連合の副会長候補の4人の方の中から、医学会の副会長に臨床系の2人の方のどちらになっていたかということ審議し、門脇先生に副会長をお願いすることになった経緯があります。

しかし、皆様お気づきだと思うのですが、この2年間、新しい執行部になってから非常に仕事が増えてきています。実際問題、4人の副会長の体制でも非常に忙しい状態で業務をこなしていることから、これは医学会も同様ですので、医学会も連合の副会長4人に、そのまま医学会の4人の副会長という形で業務をこなしてもらおうほうがよいのではないかと考えました。先ほどの幹事会でもその方針をお認めいただいて、4人という形を選ぶことを皆様にお諮りするということの賛同をいただきました。

この評議員会も次期の6月より4人の副会長を3人に絞るという作業をなくして、仕事を分担していただく方針に変えることをお諮りし、賛同が得られればそのように進めたいと思いますが、いかがでしょうか、お認めいただけますでしょうか。一拍手—

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。それでは、交代の時期が今年の6月18日ということになりますので、19日からは新しい体制として、4人副会長制にいたします。

議事はこれですべて終了しました。全体を通して質疑をお受けしたいと思います。どなたかご発言はありませんでしょうか。

ないようでしたら、先ほど申しあげました報告、それから次期の計画を予算も含めてお認めいただいたということになりましたので、本日の定例評議員会を終了したいと思います。ありがとうございます。